

会 告 (5)

日本看護研究学会雑誌37巻3号掲載を下記の通り訂正いたします。

(1) 以下の通り訂正いたします。

P14 座長

誤	11:00~11:50	正	11:00~11:50
	口演・第1群		口演・第1群
	看護技術1		看護技術1
	座長: <u>佐伯 由香</u>		座長: <u>藤井 徹也</u>

(2) 以下の通り訂正いたします。

P15 座長

誤	11:00~11:50	正	11:00~11:50	誤	14:00~14:50	正	14:00~14:50
	口演・第4群		口演・第4群		口演・第8群		口演・第8群
	精神看護1		精神看護1		看護技術2		看護技術2
	座長: <u>北島 謙吾</u>		座長: <u>長谷川雅美</u>		座長: <u>泉 キヨ子</u>		座長: <u>若村 智子</u>
誤	15:00~15:50	正	15:00~15:50	誤	16:00~16:50	正	16:00~16:50
	口演・第10群		口演・第10群		口演・第14群		口演・第14群
	急性期看護1		急性期看護1		老年看護1		老年看護1
	座長: <u>石井智香子</u>		座長: <u>山勢 博彰</u>		座長: <u>多田 敏子</u>		座長: <u>片岡 万里</u>

(3) 以下の通り訂正いたします。

P16 座長

誤	9:30~10:20	正	9:30~10:20	誤	10:30~11:20	正	10:30~11:20
	口演・第18群		口演・第18群		口演・第20群		口演・第20群
	急性期看護2		急性期看護2		看護教育(基礎教育)2		看護教育(基礎教育)2
	座長: <u>千田 好子</u>		座長: <u>浦田 秀子</u>		座長: <u>岡崎美智子</u>		座長: <u>岡崎美智子</u>
誤	14:00~14:50	正	14:00~14:50				
	口演・第27群		口演・第27群				
	リハビリテーション看護1		リハビリテーション看護1				
	座長: <u>旗持知恵子</u>		座長: <u>旗持知恵子</u>				

(4) 以下の通り訂正いたします。

P17 座長

誤	14:00~14:50	正	14:00~14:50
	口演・第28群		口演・第28群
	災害看護1		災害看護1
	座長: <u>工藤 美子</u>		座長: <u>酒井 明子</u>

(5) 以下の通り訂正いたします。

P17 示説番号

誤	11:00~11:50	正	11:00~11:50	誤	11:00~11:50	正	11:00~11:50
	示説 310~330		示説 310~332		示説 377~404		示説 379~404
誤	13:00~13:50	正	13:00~13:50	誤	14:00~14:50	正	14:00~14:50
	示説 331~351		示説 333~353		示説 352~376		示説 354~378

(6) 以下の通り訂正いたします。

P20 発表者・所属

- 誤 26 上肢リンパ浮腫における水分の分布 - MR画像を用いて -
○谷保 由依子¹, 間脇 彩奈¹, 竹野 ゆかり², 大島 千佳¹, 安藤 詳子¹, 藤本 悦子¹
¹名古屋大学大学院医学系研究科, ²愛知県立大学看護学部
- 正 26 上肢リンパ浮腫における水分の分布 - MR画像を用いて -
○谷保 由依子¹, 間脇 彩奈¹, 大島 千佳¹, 安藤 詳子¹, 藤本 悦子¹
¹名古屋大学大学院医学系研究科

(7) 以下の通り訂正いたします。

P21 発表者・所属

- 誤 34 小児看護学実習を終えた看護学生が語る幼児後期の子ども
○杉野 耕太郎¹, 竹内 詩織², 酒井 千沙都³, 村上 友紀⁴, 伊藤 詩おり⁵, 山元 利紗⁴, 堀田 昇吾⁶,
佐藤 朝美⁶, 小村 三千代⁶
¹千葉大学大学院, ²日本赤十字看護大学大学院, ³東京都立小児総合医療センター, ⁴国立病院機構東京医療センター,
⁵順天堂大学医学部附属順天堂医院, ⁶東京医療保健大学東が丘看護学部
- 正 34 小児看護学実習を終えた看護学生が語る幼児後期の子ども
○杉野 耕太郎¹, 村上 友紀², 堀田 昇吾³, 佐藤 朝美³, 小村 三千代³
¹千葉大学大学院, ²国立病院機構東京医療センター, ³東京医療保健大学東が丘看護学部

(8) 以下の通り訂正いたします。

P22 発表者・所属

- 誤 45 胃切除術を受けた患者の術前・術後の食生活に対する認識
○井上 奈々¹, 松本 智晴¹, 黒川 通典², 阪本 美奈³, 梶尾 智子³, 柴口 秀子⁴, 鈴江 朋子⁵,
石山 智香子⁵, 古吉 めぐみ⁵, 宇都 由美子⁶
¹大阪府立大学看護学部, ²大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所, ³NTT西日本大阪病院看護部,
⁴市立池田病院看護部, ⁵大阪府立急性期総合医療センター看護部, ⁶鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

正 45 胃切除術を受けた患者の術前・術後の食生活に対する認識

○井上 奈々¹, 松本 智晴¹, 黒川 通典², 阪本 美奈³, 梶尾 智子³, 栄口 秀子⁴, 鈴江 朋子⁵,
石山 智香子⁵, 古吉 めぐみ⁵

¹大阪府立大学看護学部, ²大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所, ³NTT西日本大阪病院看護部,
⁴市立池田病院看護部, ⁵大阪府立急性期総合医療センター看護部

(9) 以下の通り訂正いたします。

P23 発表者・所属

誤 46 胃切除術を受けた患者の退院後1ヶ月の食生活に対する認識

○松本 智晴¹, 井上 奈々¹, 黒川 通典², 阪本 美奈³, 梶尾 智子³, 栄口 秀子⁴, 鈴江 朋子⁵,
石山 智香子⁵, 古吉 めぐみ⁵, 宇都 由美子⁶

¹大阪府立大学看護学類, ²大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所, ³NTT西日本大阪病院看護部,
⁴市立池田病院看護部, ⁵大阪府立急性期総合医療センター看護部, ⁶鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

正 46 胃切除術を受けた患者の退院後1ヶ月の食生活に対する認識

○松本 智晴¹, 井上 奈々¹, 黒川 通典², 阪本 美奈³, 梶尾 智子³, 栄口 秀子⁴, 鈴江 朋子⁵,
石山 智香子⁵, 古吉 めぐみ⁵

¹大阪府立大学看護学類, ²大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所, ³NTT西日本大阪病院看護部,
⁴市立池田病院看護部, ⁵大阪府立急性期総合医療センター看護部

(10) 以下の通り訂正いたします。

P23 発表者

誤 50 産婦による分娩環境の情報の抽出と活用

○谷津 裕子¹, 佐々木 美喜¹, 山本 由香¹

¹日本赤十字看護大学

正 50 産婦による分娩環境の情報の抽出と活用

○佐々木 美喜¹, 谷津 裕子¹, 山本 由香¹

¹日本赤十字看護大学

(11) 以下の通り訂正いたします。

P27 発表者

誤 82 救命救急センターにおけるDNAR患者の家族援助に対する看護師の認識

○黒田 裕子¹, 樽松 久美子², 佐藤 憲章³, 榊 由里³, 福田 和明¹, 榎本 茜³

¹北里大学看護学部, ²北里大学病院救命救急センター, ³日本医科大学高度救命救急センター

正 82 救命救急センターにおけるDNAR患者の家族援助に対する看護師の認識

○榎本 茜³, 樽松 久美子², 榊 由里³, 福田 和明¹, 黒田 裕子¹

¹北里大学看護学部, ²北里大学病院救命救急センター, ³日本医科大学高度救命救急センター

(12) 以下の通り訂正いたします。

P31 演題・所属

誤 119 患者ロボットへの寝衣交換：患者の条件を同一にするメリット

○中村 充浩¹，前田 樹海¹，北島 泰子¹，金井Pak雅子¹

¹東京有明医療大学看護学部

正 119 患者ロボットへの寝衣交換：同一条件の患者から得る学生の学び

○中村 充浩¹，前田 樹海¹，北島 泰子¹，金井Pak雅子¹

¹東京有明医療大学

(13) 以下の通り訂正いたします。

P31 演題

誤 120 患者ロボットへの寝衣交換：看護学生が持つ「痛み」への感覚

○北島 泰子¹，中村 充浩¹，前田 樹海¹，金井Pak雅子¹

¹東京有明医療大学

正 120 患者ロボットへの寝衣交換：看護学生が持つ他者に起こっている「痛み」への感覚

○北島 泰子¹，中村 充浩¹，前田 樹海¹，金井Pak雅子¹

¹東京有明医療大学

(14) 以下の通り訂正いたします。

P35 発表者

誤 155 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査 第1報 キャリア計画・支援の実態

○菊地 沙織¹，神田 清子¹，藤本 桂子¹，二渡 玉江¹，岩永 喜久子¹，佐光 恵子¹，常盤 洋子¹，
荻原 京子¹，佐藤 美和¹，塚越 聖子¹，大谷 忠広¹

¹群馬大学

正 155 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査 第1報 キャリア計画・支援の実態

○菊地 沙織¹，神田 清子¹，藤本 桂子¹，二渡 玉江¹，岩永 喜久子¹，常盤 洋子¹，荻原 京子¹，
佐藤 美和¹，塚越 聖子¹，大谷 忠広¹

¹群馬大学

誤 157 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査 第3報 病院におけるクリニカルキャリアパス

○大谷 忠広¹，佐藤 未和¹，塚越 聖子¹，荻原 京子¹，神田 清子¹，藤本 桂子¹，菊地 沙織¹，
堀越 政孝¹，塚越 徳子¹，恩幣 宏美¹，佐光 恵子¹

¹群馬大学

正 157 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査 第3報 病院におけるクリニカルキャリアパス

○大谷 忠広¹，佐藤 未和¹，塚越 聖子¹，荻原 京子¹，神田 清子¹，藤本 桂子¹，菊地 沙織¹，
堀越 政孝¹，塚越 徳子¹，恩幣 宏美¹

¹群馬大学

誤 160 看護学生からの実習環境に対する満足の評価

○佐藤 未和¹, 塚越 聖子¹, 荻原 京子¹, 柳 奈津子², 恩幣 宏美², 國清 恭子², 金泉 志保美²,
常盤 洋子², 佐光 恵子², 岩永 喜久子²

¹群馬大学医学部附属病院, ²群馬大学大学院保健学研究科

正 160 看護学生からの実習環境に対する満足の評価

○佐藤 未和¹, 塚越 聖子¹, 荻原 京子¹, 柳 奈津子², 恩幣 宏美², 國清 恭子², 常盤 洋子²,
岩永 喜久子²

¹群馬大学医学部附属病院, ²群馬大学大学院保健学研究科

(15) 以下の通り訂正いたします。

P43 発表者

誤 241 九州沖縄看護系大学 8 大学の単位互換に向けた科目の統一コード化

○山名 栄子¹, 田中 美智子¹, 永嶋 由理子¹, 照屋 典子², 當山 裕子², 清水 かおり³, 中嶋 恵美子⁴,
斉藤 ひさ子⁴, 末永 陽子⁴, 日高 艶子⁵, 石橋 通江⁶

¹福岡県立大学, ²琉球大学, ³名桜大学, ⁴国際医療福祉大学, ⁵聖マリア学院大学,

⁶日本赤十字九州国際看護大学

正 241 九州沖縄看護系大学 8 大学の単位互換に向けた科目の統一コード化

○山名 栄子¹, 田中 美智子¹, 永嶋 由理子¹, 照屋 典子², 當山 裕子², 清水 かおり³, 中嶋 恵美子⁴,
斉藤 ひさ子⁴, 日高 艶子⁵, 石橋 通江⁶

¹福岡県立大学, ²琉球大学, ³名桜大学, ⁴国際医療福祉大学, ⁵聖マリア学院大学,

⁶日本赤十字九州国際看護大学

(16) 以下の通り訂正いたします。

P44 発表者

誤 248 看護基礎教育においてデジタル教科書を収めたタブレットPC運用に対する学生の意識調査

○本田 可奈子¹, 伊藤 恒子¹, 栗田 孝子¹, 林 由美子¹, 渡邊 清美¹, 武藤 英理¹, 石黒 なぎさ¹,
神谷 美香¹, 清水 八恵子¹, 大澤 伸治¹

¹大垣女子短期大学看護学科

正 248 看護基礎教育においてデジタル教科書を収めたタブレットPC運用に対する学生の意識調査

○本田 可奈子¹, 伊藤 恒子¹, 栗田 孝子¹, 林 由美子¹, 渡邊 清美¹, 武藤 英理¹, 神谷 美香¹,
清水 八恵子¹, 大澤 伸治¹

¹大垣女子短期大学看護学科

誤 250 基礎看護学実習前の模擬患者活用演習の効果

○井上 都之¹, 鈴木 美代子¹, 高橋 有里¹, 及川 正広¹, 平野 昭彦¹, 菊池 和子¹

¹岩手県立大学看護学部看護学科

- 正 250 基礎看護学実習前の模擬患者活用演習の効果
○井上 都之¹, 鈴木 美代子¹, 高橋 有里¹, 及川 正広¹
¹岩手県立大学看護学部看護学科

(17) 以下の通り訂正いたします。

P47 発表者・所属

- 誤 272 臨床看護師のキャリアアップに関する研究
○長谷川 幹子¹, 楠本 昌代¹, 森山 浩司²
¹太成学院大学看護学部, ²近代姫路大学看護学部

- 正 272 臨床看護師のキャリアアップに関する研究
○長谷川 幹子¹, 楠本 昌代¹
¹太成学院大学看護学部

(18) 以下の通り訂正いたします。

P50 発表者

- 誤 305 ダウン症者の養育者における睡眠呼吸障害の認識
○黒田 裕美¹, 小野 淳二², 澤渡 浩之^{2, 6}, 宮園 真美², 橋口 暢子², 大草 知子⁵, 西坂 麻里^{3, 4},
樗木 晶子²
¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科, ²九州大学大学院医学研究院保健学部門,
³九州大学病院睡眠時無呼吸センター, ⁴九州大学大学院医学研究院循環器内科,
⁵九州大学病院きらめきプロジェクトキャリア支援センター, ⁶日本学術振興会特別研究員

- 正 305 ダウン症者の養育者における睡眠呼吸障害の認識
○黒田 裕美¹, 小野 淳二², 澤渡 浩之^{2, 6}, 宮園 真美², 大草 知子⁵, 西坂 麻里^{3, 4}, 樗木 晶子²
¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科, ²九州大学大学院医学研究院保健学部門,
³九州大学病院睡眠時無呼吸センター, ⁴九州大学大学院医学研究院循環器内科,
⁵九州大学病院きらめきプロジェクトキャリア支援センター, ⁶日本学術振興会特別研究員

(19) 以下の通り訂正いたします。

P54 発表者・所属

- 誤 345 1歳8か月児を持つ母親の育児支援に関するニーズ
○松岡 知子¹, 岩脇 陽子¹, 滝下 幸栄¹, 中島 奈美²
¹京都府立医科大学医学部看護学科, ²京都府立医科大学附属病院

- 正 345 1歳8か月児を持つ母親の育児支援に関するニーズ
○松岡 知子¹, 岩脇 陽子¹, 滝下 幸栄¹
¹京都府立医科大学医学部看護学科

(20) 以下の通り訂正いたします。

P55 発表者・所属

誤 357 在宅緩和ケアに「電子連絡ノート」が果たした役割 –療養者の安心感とケアスタッフのチーム力向上–
○錦織 広江¹, 内海 桃絵¹, 長澤 瑠海¹, 笹山 哲¹, 出木谷 寛², 野本 慎一¹
¹京都大学医学部人間健康科学科, ²出来谷医院

正 357 在宅緩和ケアに「電子連絡ノート」が果たした役割 –療養者の安心感とケアスタッフのチーム力向上–
○錦織 広江¹, 内海 桃絵¹, 笹山 哲¹
¹京都大学医学部人間健康科学科

(21) 以下の通り訂正いたします。

P59 発表者・所属

誤 396 精神科看護師が意図的に用いる触れるケアの実際 –精神科看護師への面接調査を通して–
○小濱 大紀¹, 中田 純司², 鈴木 啓子³
¹社会医療法人高国会高井病院, ²駒木野病院, ³名桜大学

正 396 精神科看護師が意図的に用いる触れるケアの実際 –精神科看護師への面接調査を通して–
○小濱 大紀¹, 鈴木 啓子²
¹社会医療法人高国会高井病院, ²名桜大学

(22) 以下の通り訂正いたします。

P60 発表者・所属

誤 406 再発した婦人科がん患者の配偶者の体験に沿った思い
○青池 智小都¹, 横井 真弓¹, 若島 貴恵¹, 山越 節子¹, 繁田 里恵²
¹福井大学大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門,
²福井大学医学部看護学科

正 406 再発した婦人科がん患者の配偶者の体験に沿った思い
○青池 智小都¹, 若島 貴恵², 山越 節子²
¹福井大学大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門,
²福井大学医学部附属病院

(23) 以下の通り訂正いたします。

P60 発表者

誤 411 婦人科がんリンパ郭清術後の下肢リンパセルフマッサージの効果
○蒔田 侑子¹, 横井 真弓¹, 石川 智尋¹, 青池 智小都¹, 山越 節子¹, 上澤 悦子²
¹福井大学医学部附属病院, ²福井大学医学部看護学科

正 411 婦人科がんリンパ郭清術後の下肢リンパセルフマッサージの効果
○蒔田 侑子¹, 石川 智尋¹, 青池 智小都¹, 山越 節子¹, 上澤 悦子²
¹福井大学医学部附属病院, ²福井大学医学部看護学科

(24) 以下の通り訂正いたします。

P61 発表者

誤 416 がん治療に伴う続発性リンパ浮腫に関して看護師が抱える課題と意思の実際

○中尾 富士子¹, 梅木 彰子¹, 谷口 まり子¹ 1名追加

¹熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門看護学講座

正 416 がん治療に伴う続発性リンパ浮腫に関して看護師が抱える課題と意思の実際

○中尾 富士子¹, 梅木 彰子¹, 谷口 まり子¹, 樋口 有紀¹

¹熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門看護学講座

(25) 以下の通り訂正いたします。

P61 発表者・所属

誤 418 看護師のターミナル患者へのケア態度に関する調査

○宮良 淳子¹, 早川 真奈美¹, 伊藤 香代², 久米 淳子³

¹中京学院大学看護学部看護学科, ²津島市民病院, ³常滑市民病院

正 418 看護師のターミナル患者へのケア態度に関する調査

○宮良 淳子¹, 早川 真奈美¹, 伊藤 香代²

¹中京学院大学看護学部看護学科, ²津島市民病院

(26) 以下の通り訂正いたします。

P135 発表者・所属

誤

26) 上肢リンパ浮腫における水分の分布 – MR画像を用いて–

○谷保由依子¹, 間脇彩奈¹, 竹野ゆかり², 大島千佳¹, 安藤詳子¹, 藤本悦子¹

¹名古屋大学大学院医学系研究科, ²愛知県立大学看護学部

正

26) 上肢リンパ浮腫における水分の分布 – MR画像を用いて–

○谷保由依子¹, 間脇彩奈¹, 大島千佳¹, 安藤詳子¹, 藤本悦子¹

¹名古屋大学大学院医学系研究科

(27) 以下の通り訂正いたします。

P139 発表者・所属

誤

34) 小児看護学実習を終えた看護学生が語る幼児後期の子ども力

○杉野耕太郎¹, 竹内詩織², 酒井千沙都³, 村上友紀⁴, 伊藤詩おり⁵, 山元利紗⁴, 堀田昇吾⁶, 佐藤朝美⁶, 小村三千代⁶

¹千葉大学大学院, ²日本赤十字看護大学大学院, ³東京都立小児総合医療センター, ⁴国立病院機構東京医療センター, ⁵順天堂大学医学部附属順天堂医院, ⁶東京医療保健大学東が丘看護学部

正

34) 小児看護学実習を終えた看護学生が語る幼児後期の子ども力

○杉野耕太郎¹, 村上友紀², 堀田昇吾³, 佐藤朝美³, 小村三千代³

¹千葉大学大学院, ²国立病院機構東京医療センター, ³東京医療保健大学東が丘看護学部

(28) 以下の通り訂正いたします。

P146 発表者・所属

誤

45) 胃切除術を受けた患者の術前・術後の食生活に対する認識

- 井上奈々¹, 松本智晴¹, 黒川通典², 阪本美奈³, 梶尾智子³, 栄口秀子⁴, 鈴江朋子⁵, 石山智香子⁵, 古吉めぐみ⁵, 宇都由美子⁶
¹大阪府立大学看護学部, ²大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所, ³NTT西日本大阪病院看護部, ⁴市立池田病院看護部, ⁵大阪府立急性期総合医療センター看護部, ⁶鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

誤

46) 胃切除術を受けた患者の退院後1ヶ月の食生活に対する認識

- 松本智晴¹, 井上奈々¹, 黒川通典², 阪本美奈³, 梶尾智子³, 栄口秀子⁴, 鈴江朋子⁵, 石山智香子⁵, 古吉めぐみ⁵, 宇都由美子⁶
¹大阪府立大学看護学類, ²大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所, ³NTT西日本大阪病院看護部, ⁴市立池田病院看護部, ⁵大阪府立急性期総合医療センター看護部, ⁶鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

(29) 以下の通り訂正いたします。

P149 発表者

誤

50) 産婦による分娩環境の情報の抽出と活用

- 谷津裕子¹, 佐々木美喜¹, 山本由香¹
¹日本赤十字看護大学

(30) 以下の通り訂正いたします。

P168 発表者

誤

82) 救命救急センターにおけるDNAR患者の家族援助に対する看護師の認識

- 黒田裕子¹, 榎松久美子², 佐藤憲章³, 榎 由里³, 福田和明¹, 榎本 茜²
¹北里大学看護学部, ²北里大学病院救命救急センター, ³日本医科大学高度救命救急センター

正

45) 胃切除術を受けた患者の術前・術後の食生活に対する認識

- 井上奈々¹, 松本智晴¹, 黒川通典², 阪本美奈³, 梶尾智子³, 栄口秀子⁴, 鈴江朋子⁵, 石山智香子⁵, 古吉めぐみ⁵
¹大阪府立大学看護学部, ²大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所, ³NTT西日本大阪病院看護部, ⁴市立池田病院看護部, ⁵大阪府立急性期総合医療センター看護部

正

46) 胃切除術を受けた患者の退院後1ヶ月の食生活に対する認識

- 松本智晴¹, 井上奈々¹, 黒川通典², 阪本美奈³, 梶尾智子³, 栄口秀子⁴, 鈴江朋子⁵, 石山智香子⁵, 古吉めぐみ⁵
¹大阪府立大学看護学類, ²大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所, ³NTT西日本大阪病院看護部, ⁴市立池田病院看護部, ⁵大阪府立急性期総合医療センター看護部

正

50) 産婦による分娩環境の情報の抽出と活用

- 佐々木美喜¹, 谷津裕子¹, 山本由香¹
¹日本赤十字看護大学

正

82) 救命救急センターにおけるDNAR患者の家族援助に対する看護師の認識

- 榎本 茜³, 榎松久美子², 榎 由里³, 福田和明¹, 黒田裕子¹
¹北里大学看護学部, ²北里大学病院救命救急センター, ³日本医科大学高度救命救急センター

(31) 以下の通り訂正いたします。

P189 演題・所属・本文

誤

119) 患者ロボットへの寝衣交換：患者の条件を同一にするメリット

○中村充浩¹，前田樹海¹，北島泰子¹，金井Pak雅子¹
¹東京有明医療大学看護学部

【はじめに】

看護技術習得のための学内演習では、看護学生が患者役や看護師役となり対人援助を習得する。この時、看護師役の学生の学びは様々で一律ではないことが多く、これをもって学生の学びの多様性を示した研究が多い。しかし、学生が患者役となっている場合には、性別、身長や体重はもちろん学生間で差異があり、患者役の条件が異なることによって看護師役の学生の学びに差異が生じている可能性が否定できない。これを検証するために、患者ロボットを被介助者として患者の条件を同一とし、看護師役の学生の学びに差異があるのかを明らかにした。

【研究方法】

【研究目的】追加

対象者は看護系大学に所属する看護学生6名。四肢が完全に脱力し、コミュニケーションが全くできない患者ロボットに対して寝衣交換を行う。援助開始から40分経過するか、寝衣交換を4回実施した時点で援助終了とし、援助を通して考えた患者の安全、安楽について対象者にインタビューを行う。インタビュー内容は録音して逐語録を作成し、安全、安楽についての語りを抽出した。本研究は、東京有明医療大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果と考察】

安全については、「安全はやはり、転落しないことです。(学生1)」と、転倒しないこと事を安全と考えたり、「今回ベッド柵がなかったんですけど、(中略)頭の方のベッド柵はあった方が安全なのかなっていう風に思いました。(学生5)」と、転倒しないための具体的な方策をあげた学生がいた。また、「(側臥位をとった時に)腰を引いたのはありました。(学生2)」と、患者の側臥位の不安定さに着目した学生や、「(寝衣を)脱ぐ時も、ちょうど裾の部分が肘のところに引っかかったので、その引っかかったままで私が気づかないで伸ばしたりすると絶対痛いので、その時は特に気をつけないと思いました。(学生4)」と、寝衣の着脱に着目した学生、「褥瘡に気をつけてシワを伸ばしたり。(学生6)」と、褥瘡に着目した学生がいた。さらに、「安全は、あんまり考えないでやりました。(学生3)」と、安全についてそもそも考えずに援助をしたという学生もいた。安楽については、患者の身体的負担を安楽と考えた学生や、看護師の安楽に着目した学生がいた。また、患者が転落しないことが安楽であると考えた学生もいた。

安全についても安楽についても、対象者によってその学びに差異があり、一意的な収束は得られなかった。本研究によって、患者の条件が完全に一致していても、学生の学びは多様性を持つことが明らかになった。これによって、患者の条件が一定でない環境で学びが異なることを「学びの多様性」と帰結することが、重大な過誤となる可能性が示唆された。

正

119) 患者ロボットへの寝衣交換：同一条件の患者から得る学生の学び

○中村充浩¹，前田樹海¹，北島泰子¹，金井Pak雅子¹
¹東京有明医療大学

【はじめに】

看護技術習得のための学内演習では、看護学生が患者役や看護師役となり対人援助を習得する。この時、看護師役の学生の学びは様々で一律ではないことが多く、これをもって学生の学びの多様性を示した研究が多い。しかし、患者役の身長や体重は学生間で差異があり、患者役の条件が異なることによって看護師役の学生の学びに差異が生じている可能性が否定できない。これを検証するために、患者ロボットを被介助者として患者の条件を同一とし、看護師役の学生の学びに差異があるのかを明らかにした。

【研究目的】

本研究は、看護学生が患者ロボットに看護援助を行い、これによる学びに差異があるのかを明らかにすることである。

【研究方法】

対象者は看護系大学に所属する看護学生6名(1年生3名、2年生3名)。四肢が完全に脱力し、コミュニケーションが全くできない患者ロボットに対して寝衣交換を行う。援助開始から40分経過するか寝衣交換を4回実施した時点で援助終了とし、援助を通して考えた患者の安全、安楽について対象者にインタビューを行う。インタビュー内容は録音して逐語録を作成し、安全、安楽についての語りを抽出した。本研究は、東京有明医療大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果と考察】

安全については、「安全はやはり、転落しないことです。(学生1)」と、転倒しないこと事を安全と考えたり、「今回ベッド柵がなかったんですけど、(中略)頭の方のベッド柵はあった方が安全なのかなっていう風に思いました。(学生5)」と、転倒しないための具体的な方策をあげた学生がいた。また、「(側臥位をとった時に)腰を引いたのはありました。(学生2)」と、患者の側臥位の不安定さに着目した学生や、「(寝衣を)脱ぐ時も、ちょうど裾の部分が肘のところに引っかかったので、その引っかかったままで私が気づかないで伸ばしたりすると絶対痛いので、その時は特に気をつけないと思いました。(学生4)」と、寝衣の着脱に着目した学生、「褥瘡に気をつけてシワを伸ばしたり。(学生6)」と、褥瘡に着目した学生がいた。さらに、「安全は、あんまり考えないでやりました。(学生3)」と、安全についてそもそも考えずに援助をしたという学生もいた。安楽については、患者の身体的負担を安楽と考えた学生や、看護師の安楽に着目した学生がいた。また、患者が転落しないことが安楽であると考えた学生もいた。

安全についても安楽についても、対象者によってその学びに差異があり、一意的な収束は得られなかった。看護師役の体格の差異に起因するものである可能性は否定できないが、本研究によって、患者の条件が完全に一致していても学生の学びは多様性を持つことが示唆された。

(32) 以下の通り訂正いたします。

P190 演題

誤

120) 患者ロボットへの寝衣交換：看護学生が持つ「痛み」への感覚

正

120) 患者ロボットへの寝衣交換：看護学生が持つ他者に起こっている「痛み」への感覚

(33) 以下の通り訂正いたします。

P192 123) 図

誤



正

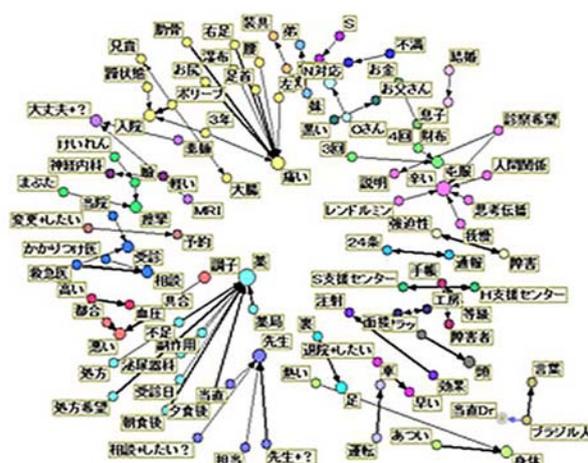


図1 言葉のネットワーク図

(34) 以下の通り訂正いたします。

P211 発表者

誤

155) 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査 第1報 キャリア計画・支援の実態

○菊地沙織¹, 神田清子¹, 藤本桂子¹, 二渡玉江¹, 岩永喜久子¹, 佐光恵子¹, 常盤洋子¹, 荻原京子¹, 佐藤美和¹, 塚越聖子¹, 大谷忠広¹
¹群馬大学

正

155) 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査 第1報 キャリア計画・支援の実態

○菊地沙織¹, 神田清子¹, 藤本桂子¹, 二渡玉江¹, 岩永喜久子¹, 常盤洋子¹, 荻原京子¹, 佐藤美和¹, 塚越聖子¹, 大谷忠広¹
¹群馬大学

(35) 以下の通り訂正いたします。

P212 発表者

誤

157) 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査 第3報 病院におけるクリニカルキャリアパス

○大谷忠広¹, 佐藤未和¹, 塚越聖子¹, 荻原京子¹, 神田清子¹, 藤本桂子¹, 菊地沙織¹, 堀越政孝¹, 塚越徳子¹, 恩幣宏美¹, 佐光恵子¹
¹群馬大学

正

157) 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査 第3報 病院におけるクリニカルキャリアパス

○大谷忠広¹, 佐藤未和¹, 塚越聖子¹, 荻原京子¹, 神田清子¹, 藤本桂子¹, 菊地沙織¹, 堀越政孝¹, 塚越徳子¹, 恩幣宏美¹
¹群馬大学

(36) 以下の通り訂正いたします。

P213 発表者

誤

160) 看護学生からの実習環境に対する満足の評価

○佐藤未和¹, 塚越聖子¹, 荻原京子¹, 柳奈津子²,
恩幣宏美², 國清恭子², 金泉志保美², 常盤洋子²,
佐光恵子², 岩永喜久子²

¹群馬大学医学部附属病院, ²群馬大学大学院保健学研究科

正

160) 看護学生からの実習環境に対する満足の評価

○佐藤未和¹, 塚越聖子¹, 荻原京子¹, 柳奈津子²,
恩幣宏美², 國清恭子², 常盤洋子², 岩永喜久子²

¹群馬大学医学部附属病院, ²群馬大学大学院保健学研究科

(37) 以下の通り訂正いたします。

P227 本文・図

誤

185) 身体論を用いた看護基礎技術習得のための自己学習支援教育ツールの開発

○鮫島輝美¹, 井川 啓²

¹京都光華女子大学健康科学部看護学科, ²京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科

【背景】

看護技術の習得は看護教育の中核である。看護教育は、実習中心の職業訓練から学問の体系化を目指した高等教育へと発展した。また看護技術教育も、看護手順の習得から、科学的根拠を明確化する教育へと変化した。その結果、学内実習時間は減少傾向にあり、臨床現場から学生の技術能力の低下を指摘され続けている。学生の学びが進まない原因として、日常生活能力の低下や体験不足・不器用さが挙げられることも多い。そのため補助教材が多様化しているが、十分な効果が得られているとは言い難い。

【目的】

本研究は、看護技術の基盤概念を〈相互身体的〉な関わりとし、この〈相互身体的〉な関わりが起きる機序を精緻化した大澤の〈身体論〉を採用し、技術習得の理論として「状況論」を採用した。これらの理論を背景とし、基礎看護技術習得のための自己学習支援教育ツール開発を目的とした。具体的には、半強制的に〈相互身体的〉状況を作り出すことで、学習者の身体性を高め、看護技術習得を促進するために、学習者が複数の視点を能動的に変更できるタブレット用視覚教材(図)を開発し、その有効性を検証することである。今回は、第1段階である「視覚教材の制作」について報告する。

【方法】

教材作成にあたり、既存の教材との変更点は、撮影視点の複数性にある。本研究では、撮影の視点を4点、1) 当事者の視点、2) 3) 共視関係にある視点(左右) 4) 第三者の視点、をおいた。次に重要となったのが、学習者がこの視点を能動的に変更できる点である。技術上の問題が2点あった。撮影用カメラや影が映り込まない工夫と、プログラム上の問題であった。解決方法は当日提示する。

【結果】

当日は実際に作成した教材ビデオを見ていただく。本研究は、JSPS 科研費、挑戦的萌芽研究 25670934の助成を受けたものである。



正

185) 身体論を用いた看護基礎技術習得のための自己学習支援教育ツールの開発

○鮫島輝美¹, 井川 啓²

¹京都光華女子大学健康科学部看護学科, ²京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科

【背景】

看護教育は、実習中心の職業訓練から学問の体系化を目指した高等教育へと発展した。また看護技術教育も、看護手順の習得から、科学的根拠を明確化する教育へと変化した。結果、学内実習時間は減少し、学生の技術能力低下を指摘されている。原因として、日常生活能力の低下や体験不足・不器用さが挙げられ、映像などの補助教材が多様化しているが、効果が得られているとは言い難い。

【目的】

本研究は、看護技術の基盤概念を〈相互身体的〉な関わりとした大澤の「身体論」(1990)、技術習得の理論として「状況論」を採用し、基礎看護技術習得のための自己学習支援教育ツール開発を目的とした。

【方法】

ツール開発の活動を「新しい活動の創造」と捉え、活動そのものをエスノメソドロジーにて分析する。分析には、活動理論(エンゲストローム, 1999)を用いる。

【結果】

既存教材との変更点は、撮影視点の複数化にある。作成にあたり、問題が2点あった。①技術上の問題 a) 撮影用カメラや人物の影が映り込まない工夫、b) タブレット上での動作の円滑化、②コストの問題である。a) は、撮影専門業者に相談し、機材協力を得ることができた。また、撮影スタジオを多角形とし、撮影美術制作業者に作成依頼することで解決した。b) は、再生方法をWeb上管理することで解決した。a) b) の結果②コストダウンも実現した。

【考察】

活動理論では、人間の活動を図のように捉えている。「対象」は既存の教育ツール、「結果」は、新しい教育ツールの開発となる。教育上の問題は、「道具」と「対象」の間の矛盾、① a) は「道具」と「ルール」の間の矛盾を解消する活動であった。また、協力者を拡大し「共同体」と「分業」に働きかけることで、「結果」新しい教育ツールの開発が可能となった。本研究は、JSPS 科研費、挑戦的萌芽研究 25670934の助成を受けたものである。

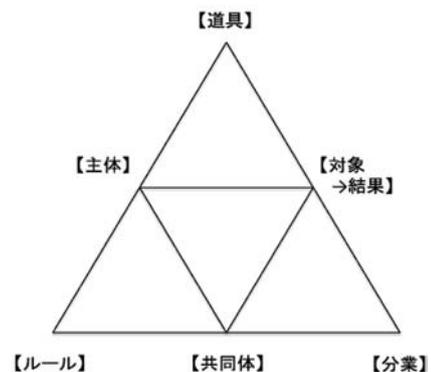


図 人間の活動

(38) 以下の通り訂正いたします。

P255 発表者

誤

241) 九州沖縄看護系大学8大学の単位互換に向けた科目の統一コード化

○山名栄子¹, 田中美智子¹, 永嶋由理子¹, 照屋典子², 當山裕子², 清水かおり³, 中嶋恵美子⁴, 齊藤ひさ子⁴, 末永陽子⁴, 日高艶子⁵, 石橋通江⁶
¹福岡県立大学, ²琉球大学, ³名桜大学, ⁴国際医療福祉大学, ⁵聖マリア学院大学, ⁶日本赤十字九州国際看護大学

正

241) 九州沖縄看護系大学8大学の単位互換に向けた科目の統一コード化

○山名栄子¹, 田中美智子¹, 永嶋由理子¹, 照屋典子², 當山裕子², 清水かおり³, 中嶋恵美子⁴, 齊藤ひさ子⁴, 日高艶子⁵, 石橋通江⁶
¹福岡県立大学, ²琉球大学, ³名桜大学, ⁴国際医療福祉大学, ⁵聖マリア学院大学, ⁶日本赤十字九州国際看護大学

(39) 以下の通り訂正いたします。

P259 発表者

誤

248) 看護基礎教育においてデジタル教科書を収めたタブレットPC運用に対する学生の意識調査

○本田可奈子¹, 伊藤恒子¹, 栗田孝子¹, 林由美子¹, 渡邊清美¹, 武藤英理¹, 石黒なぎさ¹, 神谷美香¹, 清水八恵子¹, 大澤伸治¹
¹大垣女子短期大学看護学科

正

248) 看護基礎教育においてデジタル教科書を収めたタブレットPC運用に対する学生の意識調査

○本田可奈子¹, 伊藤恒子¹, 栗田孝子¹, 林由美子¹, 渡邊清美¹, 武藤英理¹, 神谷美香¹, 清水八恵子¹, 大澤伸治¹
¹大垣女子短期大学看護学科

(40) 以下の通り訂正いたします。

P260 発表者

誤

250) 基礎看護学実習前の模擬患者活用演習の効果

○井上都之¹, 鈴木美代子¹, 高橋有里¹, 及川正広¹, 平野昭彦¹, 菊池和子¹
¹岩手県立大学看護学部看護学科

正

250) 基礎看護学実習前の模擬患者活用演習の効果

○井上都之¹, 鈴木美代子¹, 高橋有里¹, 及川正広¹
¹岩手県立大学看護学部看護学科

(41) 以下の通り訂正いたします。

P271 発表者・所属

誤

272) 臨床看護師のキャリアアップに関する研究

○長谷川幹子¹, 楠本昌代¹, 森山浩司²
¹太成学院大学看護学部, ²近代姫路大学看護学部

正

272) 臨床看護師のキャリアアップに関する研究

○長谷川幹子¹, 楠本昌代¹
¹太成学院大学看護学部

(42) 以下の通り訂正いたします。

P288 発表者

誤

305) ダウン症者の養育者における睡眠呼吸障害の認識

○黒田裕美¹, 小野淳二², 澤渡浩之^{2, 6}, 宮園真美²,
橋口暢子², 大草知子⁵, 西坂麻里^{3, 4}, 樗木晶子²
¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科, ²九州大学大学院
医学研究院保健学部門, ³九州大学病院睡眠時無呼吸セ
ンター, ⁴九州大学大学院医学研究院循環器内科,
⁵九州大学病院きらめきプロジェクトキャリア支援セン
ター, ⁶日本学術振興会特別研究員

(43) 以下の通り訂正いたします。

P310 発表者・所属

誤

345) 1歳8か月児を持つ母親の育児支援に関するニーズ

○松岡知子¹, 岩脇陽子¹, 滝下幸栄¹, 中島奈美²
¹京都府立医科大学医学部看護学科, ²京都府立医科大学
附属病院

(44) 以下の通り訂正いたします。

P316 発表者・所属

誤

**357) 在宅緩和ケアに「電子連絡ノート」が果たした役割
—療養者の安心感とケアスタッフのチーム力向上—**

○錦織広江¹, 内海桃絵¹, 長澤瑠海¹, 笹山 哲¹
出木谷寛², 野本愼一¹
¹京都大学医学部人間健康科学科, ²出来谷医院

(45) 以下の通り訂正いたします。

P336 発表者・所属

誤

**396) 精神科看護師が意図的に用いる触れるケアの実際
—精神科看護師への面接調査を通して—**

○小濱大紀¹, 中田純司², 鈴木啓子³
¹社会医療法人高井会高井病院, ²駒木野病院, ³名桜大学

正

305) ダウン症者の養育者における睡眠呼吸障害の認識

○黒田裕美¹, 小野淳二², 澤渡浩之^{2, 6}, 宮園真美²,
大草知子⁵, 西坂麻里^{3, 4}, 樗木晶子²
¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科, ²九州大学大学院
医学研究院保健学部門, ³九州大学病院睡眠時無呼吸セ
ンター, ⁴九州大学大学院医学研究院循環器内科,
⁵九州大学病院きらめきプロジェクトキャリア支援セン
ター, ⁶日本学術振興会特別研究員

正

345) 1歳8か月児を持つ母親の育児支援に関するニーズ

○松岡知子¹, 岩脇陽子¹, 滝下幸栄¹
¹京都府立医科大学医学部看護学科

正

**357) 在宅緩和ケアに「電子連絡ノート」が果たした役割
—療養者の安心感とケアスタッフのチーム力向上—**

○錦織広江¹, 内海桃絵¹, 笹山 哲¹
¹京都大学医学部人間健康科学科

正

**396) 精神科看護師が意図的に用いる触れるケアの実際
—精神科看護師への面接調査を通して—**

○小濱大紀¹, 鈴木啓子²
¹社会医療法人高井会高井病院, ²名桜大学

(46) 以下の通り訂正いたします。

P341 発表者・所属

誤

406) 再発した婦人科がん患者の配偶者の体験に沿った思い

○青池智小都¹, 横井真弓¹, 若島貴恵¹, 山越節子¹,
繁田里恵²

¹福井大学大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門, ²福井大学医学部看護学科

正

406) 再発した婦人科がん患者の配偶者の体験に沿った思い

○青池智小都¹, 若島貴恵², 山越節子²

¹福井大学大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門, ²福井大学医学部附属病院

(47) 以下の通り訂正いたします。

P344 発表者

誤

411) 婦人科がんリンパ郭清術後の下肢リンパセルフマッサージの効果

○蒔田侑子¹, 横井真弓¹, 石川智尋¹, 青池智小都¹,
山越節子¹, 上澤悦子²

¹福井大学医学部附属病院, ²福井大学医学部看護学科

正

411) 婦人科がんリンパ郭清術後の下肢リンパセルフマッサージの効果

○蒔田侑子¹, 石川智尋¹, 青池智小都¹, 山越節子¹,
上澤悦子²

¹福井大学医学部附属病院, ²福井大学医学部看護学科

(48) 以下の通り訂正いたします。

P346 発表者

誤

416) がん治療に伴う続発性リンパ浮腫に関して看護師が抱える課題と思いの実際

○中尾富士子¹, 梅木彰子¹, 谷口まり子¹ 1名追加

¹熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門看護学講座

正

416) がん治療に伴う続発性リンパ浮腫に関して看護師が抱える課題と思いの実際

○中尾富士子¹, 梅木彰子¹, 谷口まり子¹, 樋口有紀¹

¹熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門看護学講座

(49) 以下の通り訂正いたします。

P347 発表者・所属

誤

418) 看護師のターミナル患者へのケア態度に関する調査

○宮良淳子¹, 早川真奈美¹, 伊藤香代², 久米淳子³

¹中京学院大学看護学部看護学科, ²津島市民病院, ³常滑市民病院

正

418) 看護師のターミナル患者へのケア態度に関する調査

○宮良淳子¹, 早川真奈美¹, 伊藤香代²

¹中京学院大学看護学部看護学科, ²津島市民病院

(50) 以下の通り訂正いたします。

P374 演題索引

誤

榎本 茜 82

正

榎本 茜 ○82

(51) 以下の通り訂正いたします。

P377 演題索引

誤		正	
黒田 裕子	○82	黒田 裕子	82

(52) 以下の通り訂正いたします。

P378 演題索引

誤		正	
佐々木美喜	50, 53	佐々木美喜	○50, 53

(53) 以下の通り訂正いたします。

P382 演題索引

誤		正	
(未掲載)		樋口 有紀	416

(54) 以下の通り訂正いたします。

P384 演題索引

誤		正	
谷津 裕子	○50, ○53	谷津 裕子	50, ○53

(55) 以下の通り訂正いたします。

P445 附則

誤

4. 平成22年の定時社員総会前日に任期が満了する評議員のうち、任期を2年間延長することに同意した者は、定款第44条の平成22年6月を始期とする任期2年の評議員として選任されたものとみなす。
5. 本規定は平成24年5月13日から施行する。

6. 未掲載

正

4. 平成22年の定時社員総会前日に任期が満了する評議員のうち、任期を2年間延長することに同意した者は、定款第44条の平成22年6月を始期とする任期2年の評議員として選任されたものとみなす。
5. 本規定は平成24年5月13日から施行する。
6. 第5条（被選任資格）平成25年5月12日一部改正施行する。